

分野：(3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査
①気管支ぜん息の動向等

(3)-①

申請課題名：小児気管支ぜん息の重症化予防と効果的寛解導入を目指す多層的プログラム開発に関する研究

調査研究代表者氏名：藤澤 隆夫

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	0人	6人	0人	0人	0人	4.00
(2) 研究成果目標の達成度	0人	1人	4人	1人	0人	3.00
(3) 研究計画の妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.67
(4) 研究内容の独自性	0人	4人	2人	0人	0人	3.67
(5) 社会・経済に対する貢献度	0人	5人	1人	0人	0人	3.83
個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均						3.63
(6) 総合評価(第2評価)	0人	5人	1人	0人	0人	3.83
全体評価(第1評価):(1)～(6)の平均						3.67
2 記述評価						
委員 A	学校とクリニックに対する参加度・協力度が計画達成には重要である。 ・小児から青年期喘息に内科医や他領域の医師が処方したBiologicsの実態、及び効果の把握が必須である。					
委員 B	登録者数を増加させる方策を考える必要がある。生物製剤の選択の指針や投与量の検討は独立して行うくらいスケールの大きいプロジェクトだと考えられる。長期にわたるコホートの維持を達成し、研究が完成することを期待したい。					
委員 C	アプリ作成のトラブルによりアプリを使った調査研究の進展が遅くはなったことは残念であったが、最終的にアプリが利用できるということで良かった。 他の研究項目では注目すべき結果も見られるが、症例数が少ないので、今後、症例数を増加する取り組みが必要である。					
委員 D	当初目標に対して一部の成果が十分とはいえないところがある。今後の取り組みに期待したい。					
委員 E	健康長寿を目指すライフスパンにおいても、小児期低肺機能の予防の重要性が注目されている。本研究により、小児期低肺機能の把握・予防に関する一定の成果が得られている。					
委員 F	開発が中断したアプリについては、未治療ぜん息児向けの広報手段として位置づけ直すなど、その活用を検討してほしい。本研究を厳密な臨床研究とみれば治療介入の方法については疑問が生ずるが、介入研究ではなく観察研究として解析を進めることもありうるのではないか。					